

きらきら、つながる。

QTnet News Release

2024 年 1 月 10 日
株式会社 QTnet
福岡市中央区天神 1-12-20法人向けマルチ生成 AI プラットフォーム「QT-GenAI」、
安全に企業固有の回答を生成する機能を追加

～新プラン、2024 年 1 月 10 日（水）から受付開始～

株式会社 QTnet（本社：福岡市、代表取締役社長：小倉良夫）は、法人向けマルチ生成 AI プラットフォーム「QT-GenAI^{*1}」において RAG（Retrieval-Augmented Generation）^{*2}を用いて企業の独自データを安全に活用できる機能を追加した新プラン「スタンダードプラン」の受付を、2024 年 1 月 10 日（水）から開始いたします。

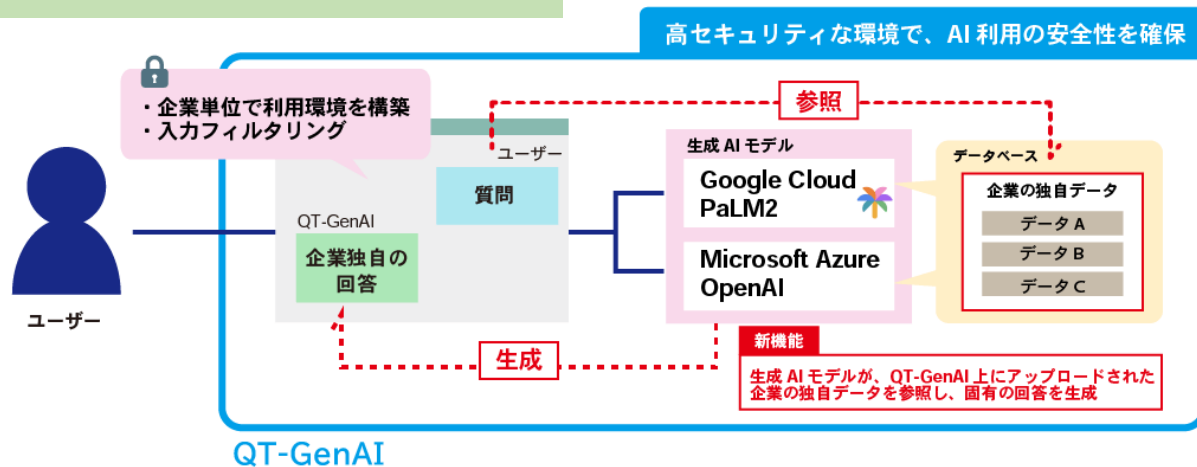
QT-GenAI は、企業単位での利用環境の構築、入力フィルタリング機能などを有し、機密性の高い環境下で安全に生成 AI が利用できるサービスです。今回追加された機能は、QT-GenAI 上にアップロードした企業の独自データを生成 AI モデルが参照し、企業固有の回答を生成できるもので、更なる生産性向上が期待できます。

当社は今後も、情報通信の更なる可能性を追求し、お客さまへ新たな “ワクワク” をもたらす新規事業・サービスを創出してまいります。

^{*1} 2023 年 9 月 14 日プレスリリース 法人向けマルチ生成 AI「QT-GenAI」を共同開発（https://www.qtnet.co.jp/info/?page_name=313401:0qptu.266/iunm）を参照

^{*2} データベースに保管されたデータを大規模言語モデル（LLM）が参照し、固有の回答を生成する仕組み

QT-GenAI スタンダードプラン 企業の独自データ活用機能の概要



QT-GenAI

概要	・企業が生成 AI を安全に利用できる SaaS 型 Web アプリケーションサービス ・業務に応じたオリジナルテンプレートやプロンプト作成支援機能の提供 ・生成 AI 活用の導入支援、研修およびガイドライン作成アドバイザー
機能一覧	セキュリティ機能、ダッシュボード機能、ログ管理機能、プロンプト作成支援機能、企業の独自データ活用 ^{*3} （*3 スタンダードプランのみで提供）
機能、価格などについて	以下 QT-GenAI 特設サイトをご覧ください、ご不明点はお気軽にお問合せフォームからお問合せください URL : https://qtgenai.qtnet-tsunagu.jp/ 担当 : QTnet YOKA プロ部

※Microsoft、Microsoft Azure、OpenAI は、米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。

Google Cloud Platform、PaLM2 は、Google LLC の商標または登録商標です。

また、本文中に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

以上

【企業の独自データ活用機能を使用した画面イメージ】

QT-GenAI for QTnet(スレーシング環境)

[チャット画面](#) [設定](#) [お問い合わせ](#)

ダッシュボード

システム管理

カスタムデータ管理

ログ管理

ダウンロード管理

請求履歴

ユーザー管理

カスタムデータ管理

最終更新日時: 2023/12/28 15:19:03

QT-GenAI の知識をカスタマイズすることができます。この機能により、自社マニュアルのチャットボットなどが簡単に作成できます。

+ データグループ追加

データグループ名	ファイル数	参照回数	参照モード	ステータス ①	
行政公開データ	33	90	行政公開データ	利用可能	...
QTnet規定集	2	322	QTnet規定集	利用可能	...

企業固有の独自データをアップロードし、そのデータを使用した回答を生成できるようになります。

10年後を見据えた通信産業の課題を3つ提示してください。

参考ファイル(2): 2023年版_情報通信白書.pdf, 2023年版_ものづくり白書.pdf,

回答:

10年後を見据えた通信産業の課題は以下の3つです。

- Beyond 5G（6G）の技術開発と実現:** 2020年代には5Gの商用サービスが開始され、普及が進んでいますが、10年後の通信産業ではBeyond 5G（6G）の技術開発と実現が重要な課題となります。Beyond 5G（6G）は、5Gの次の世代の情報通信インフラとして、2030年代のあらゆる産業・社会活動の基盤となることが期待されています。具体的には、5Gの特徴である「高速・大容量」、「低遅延」、「多数同時接続」の機能を更に高度化するだけでなく、新たな機能として「超低消費電力」、「通信力バレッジの拡張性」、「自律性」、「超安全・信頼性」などが求められます。
- デジタルインクルージョンの推進:** 10年後の通信産業では、デジタルインクルージョンの推進が重要な課題となります。デジタルインクルージョンとは、情報通信技術の普及と利用によって、社会のあらゆる層が包括的に参加し、恩恵を享受できる状態を指します。特に、地方や農村地域、高齢者、障害者などのデジタル格差を解消し、誰もが情報通信技術を活用できる環境を整備する必要があります。また、デジタルインクルージョンの推進には、インフラ整備だけでなく、デジタルリテラシーの向上やデジタルサービスの提供なども重要な要素となります。
- サイバーセキュリティの強化:** 10年後の通信産業では、サイバーセキュリティの強化が不可欠な課題となります。情報通信技術の進化に伴い、サイバー攻撃の脅威も増加しています。重要なインフラや個人情報の保護、ビジネスの継続性の確保など、サイバーセキュリティの強化はますます重要となります。これには、セキュリティ技術の開発と導入、組織や個人のセキュリティ意識の向上、国際的な協力体制の構築などが必要です。

以上が、10年後を見据えた通信産業の課題の3つです。これらの課題に取り組むことで、持続的な発展と安定した通信環境の実現に向けて貢献できるでしょう。